

特別支援教育研究論文集

—令和元年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

肢体不自由のある児童生徒の自立活動の指導に関する研究
—自立活動の指導の充実に向けた校内支援体制と
地域支援システムの構築—

香川県立高松養護学校

教諭 大比賀 尚子

令和2年3月

公益財団法人 みずほ教育福祉財団

要旨

本研究は、本校の自立活動の指導における強みと課題を把握するための実態調査を行い、自立活動室に所属する立場から、校内の自立活動の指導の充実に向けた学級支援体制の在り方や学級との連携の在り方を検討することを目的としたものである。また、県下唯一の肢体不自由特別支援学校の役割として、センター的機能を発揮した地域の小学校や中学校等への地域支援の在り方についても併せて検討する。

本校には、「自立活動の専門的な知識や技能を有する教員」の配置、育成と肢体不自由のある子ども達に対して自立活動の専門的な指導を行うために自立活動室が設けられており、現在理学療法士の有資格者2名を含む6名の専任の教員が配置されている。本校の自立活動の指導に関する強みと課題を把握するための実態調査によると、本校の自立活動の強みの一つとして、「自立活動室の存在」が挙げられており、自立活動室の情報発信や学級支援が本校の自立活動の指導を支える大きな役割を担っていることが分かった。一方、自立活動の指導について、個々の教員が自分の実践力や専門性に自信がもてていないことや、学級と自立活動室との指導上の連携が十分でないこと、個別の指導計画の作成に関して多くの教員が難しさを感じていること等が分かった。このことから、それらの状況の改善に向けて、自立活動室における学級支援の改善と学級との連携強化に向けた取組を行った。

自立活動室における学級支援については、学級担任が個々の専門性の向上やスキルアップが感じられるような取組となるように改善を図った。いくつかのアイデアの中から、学級の状況に合わせて今できることを学級担任が選択し、決定する形での学級支援は、学級担任の主体的な取組に繋がった。また、学級の課題解決に向けた取組を開始する前に、誰が、いつ、どこで、どのように支援や指導を行うのかを決めておくことは、学級の生活に根付いた具体的で実現可能な取組を行うことに効果的だった。

学級と自立活動室との連携強化における取組では、自立活動室が、自立活動の実態把握から指導目標及び指導内容設定までの流れ図の作成の段階から学級の話し合いに加わり、それをもとに学級と役割分担しながら自立活動の指導を行った。このことは、学級担任が抱えている自立活動の個別の指導計画の作成の難しさや学級と自立活動室との指導上の連携の不十分さ等の課題を改善する取組として、一定の効果があった。

地域の小学校や中学校においても特別支援教育の充実に向けて「自立活動の指導」や「個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成」が求められる時代となり、特別支援学校のセンター的機能は、今後ますます重要な役割を担うことになる。本校においても、校内の自立活動の指導の充実を進めていくと共に、地域の特別支援教育の充実のために、校内の取組から得た知識やノウハウを活かした地域支援の在り方について検討していくことが必要となる。

キーワード：自立活動の指導、自立活動室、学級支援、学級との連携、地域支援体制